

株式会社ベルパック



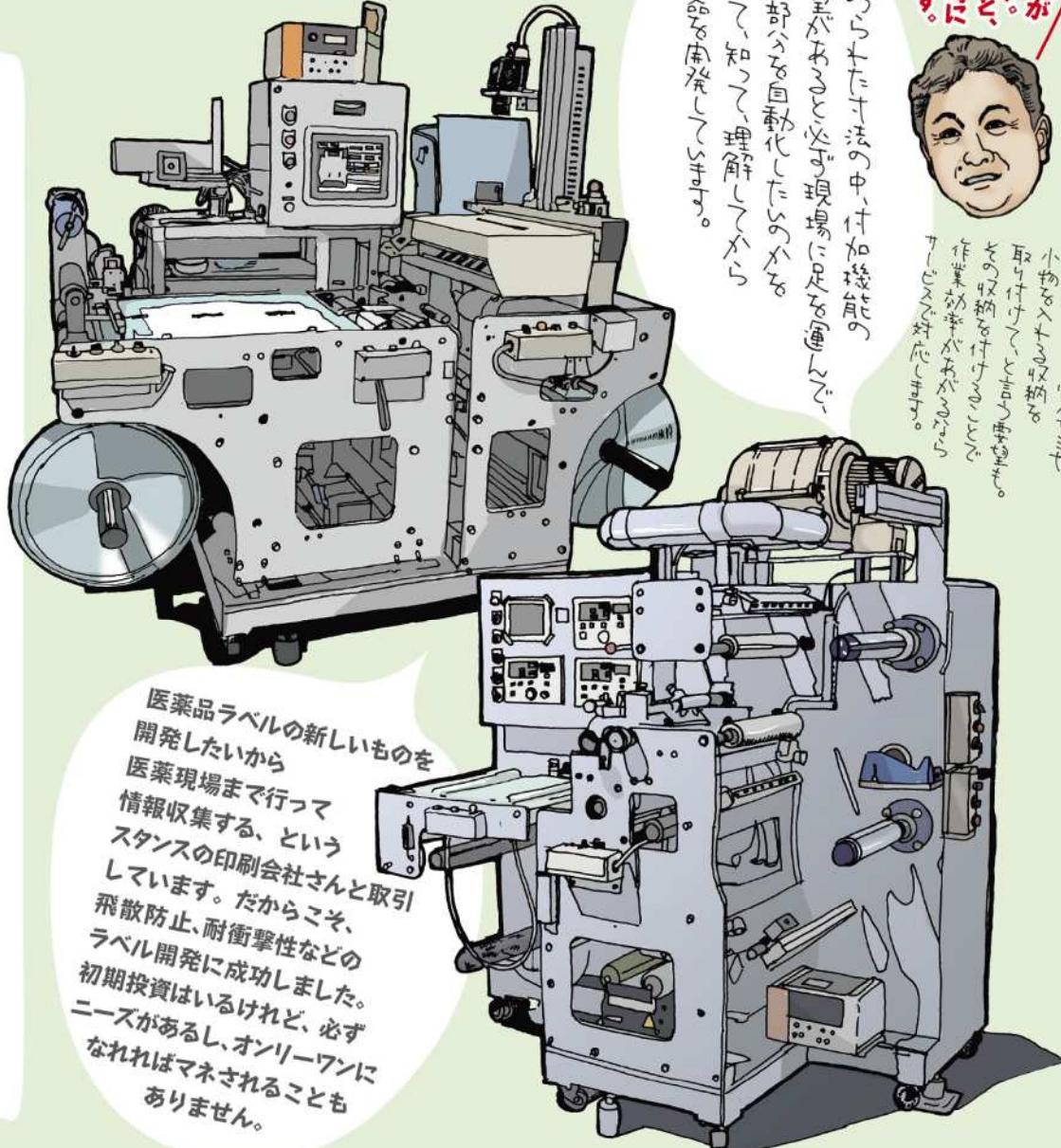
世の中にはない機械を開発して、印刷や包装の精度を高めるために

代表取締役社長 柳澤 隆司さん

もともとは柳澤鉄工所という名前で創業し、自社で作った機械で特許も取得。鉄工所と聞くと加工業だと思われるようで、メーカーらしい社名に変えようと平成3年に社名変更。当社の代表商品でもあるベルパックをそのまま社名にしました。

祖父は機械加工の中でも1級旋盤士という腕のいい職人。さらに父もものづくりが好きで、高校を中退して設計を学ぶほど。平成3年に私が入社した時は大ロットの生産多かったんです。当時、需要が大きかったのは、ビール瓶のアルミ蒸着ラベル。500枚単位で印刷会社が出荷していましたが、そりやすいので帶の仕方も工夫が必要でした。

当社の機器は印刷業界にとどまらず、食品、製薬、日用雑貨と多ジャンルで活用されています。人件費にして最大5名分の仕事をこなす能力があるので、人件費の削減や省力化、効率化というニーズにマッチ。ものづくり企業が取り組むべき課題に、当社の機器が役立ってくれればと思っています。



検査や係数を自動化。オーダーメイドの機器製造

ベルパックは、昭和25年に印刷機械部品の加工から始まった。現在は印刷検査機、巻き取り印刷物自動検査計数機、高速シートカッター、スリッター機など検査装置や印刷効率の向上につながる機器を製造する。この変遷は、お客様からの要望や課題解決を機器開発に反映してきた結果だ。

たとえば、医薬品のパッケージ印刷を行う会社から、箱数の管理が厳しく、パートスタッフが50個ずつ帯でまとめる作業を行っているが、生産数も急増しているので自動化できないかという相談。そこで、帯掛けを自動的に行うという意味のベルトパッケージ、略して「ベルパック」を開発。今まで改良を重ねているが、当時、1分間に18束の帯掛けを可能にした。さらに、たばこのパッケージは1枚の紙に多面印刷し切断し人の目で検査する流れを自動化したいという相談にも、自動化ラインを開発し自動化。このように、印刷業界での加工仕上げや検査・検品は人海戦術が当たり前だったのを自動化することで、人件費の削減やミス軽減に貢献した。

その後も医薬品や食品のパッケージ印刷での機器を開発していくが、目を向けたのがシールラベル業界。シールラベルはロール状に印刷され計数や検査を人海戦術で対応。計数計測を誤差ゼロができる機器を開発。さらに、計数計測に加え自動検査機も必要だという会社が多いことが分かった。印刷ラインの流れているものを人の目で検査すると、乱視になったりその日の体調によって検査精度が左右される。そこで、画像処理会社とタッグを組み、カメラでラベルの不具合をチェックし、計数もカウントする「ロールラベルチェッカー」を開発した。ラベルの検査と計数ができるとあり、医薬品容器の印刷などで活用されている。

同社の機器はスタンダード品ではなく、ピンポイントのニーズに応えてきたオーダーメイド。なくてはならないものを作れることが評判を呼び、課題を抱える企業が同社を頼ってくる。アイデアと開発力こそが、同社の原動力だと言える。

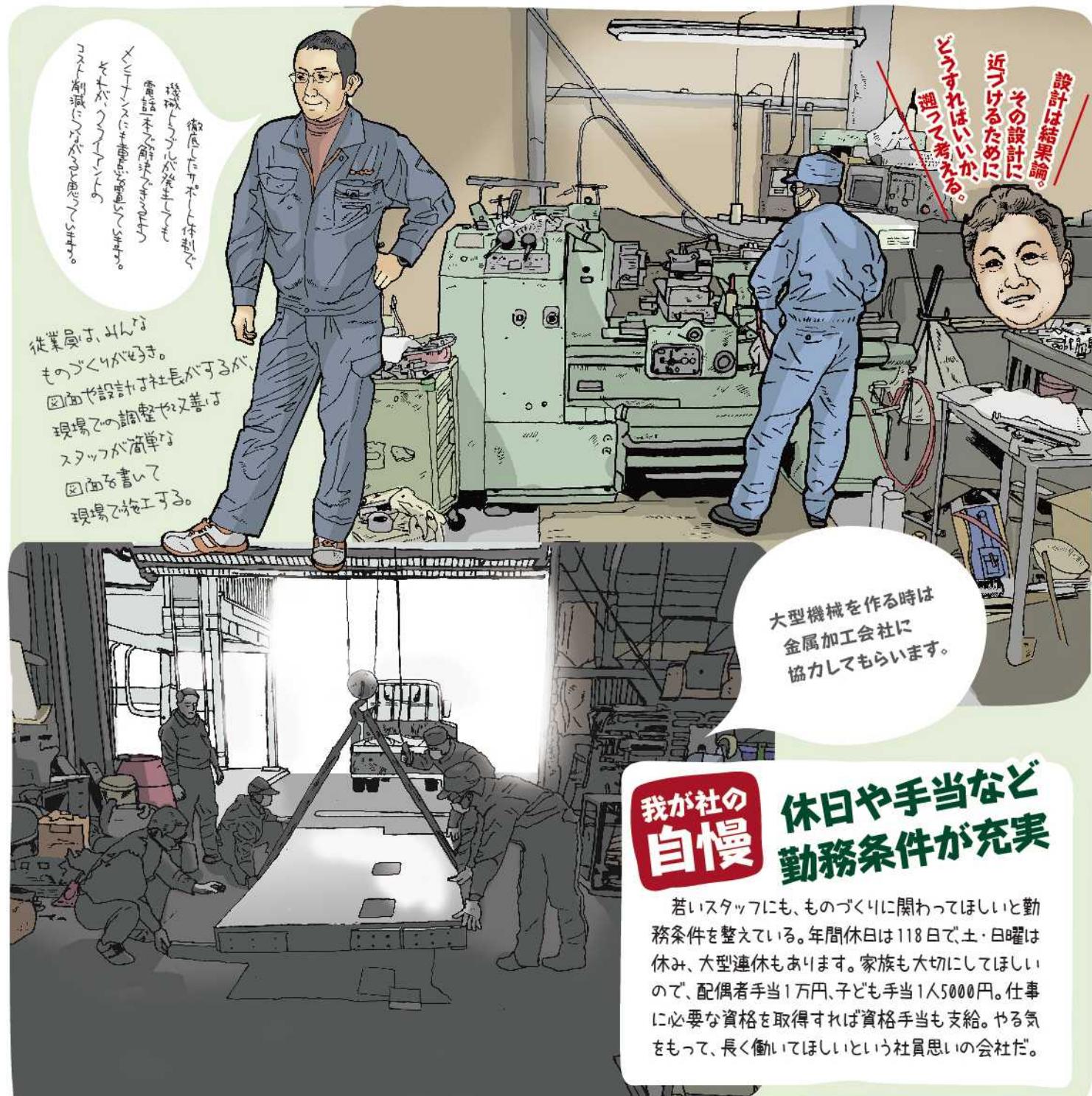
株式会社ベルパック

<http://www.belpac.co.jp/>

〒544-0012 大阪市生野区巽西4-7-8

TEL:06-6754-7061 FAX:06-6757-8738

事業内容／ベルパックオート自動袋封機製造販売、帯掛けに関する全自動システム化ライン設計製作、巻き取り印刷物自動検査計数機、メカトロ対象機放葉印刷物検査機高速シートカッターサーマルグラビア輪転印刷機、スリッター機、バレタイザー、その他自動化システムライン設計製作



若いスタッフにも、ものづくりに関わってほしいと勤務条件を整えている。年間休日は118日で、土・日曜は休み、大型連休もあります。家族も大切にしてほしいので、配偶者手当1万円、子ども手当1人5000円。仕事に必要な資格を取得すれば資格手当も支給。やる気をもって、長く働いてほしいという社員思いの会社だ。